

## 医療機関向け調査の結果について

### 1 概要

医療ツーリズムを推進する上での現状の把握及び課題等を明らかにすることを目的に、県内の病院に対して、令和元年度を対象期間とした「外国人患者の受入れ<sup>\*</sup>状況に関するアンケート」を実施した。

<sup>\*</sup>本調査において、「外国人患者の受入れ」とは、「愛知県の医療機関で受診することを目的に訪日した外国人患者に「健診・検診」や「治療」を実施すること」と定義し、単に観光や仕事等を目的に訪日した外国人が突然の病気等で受診した場合や、日本に在住する外国人患者に対する診療は除く。

### 2 調査対象

県内 250 病院

### 3 調査期間

令和 2 年 7 月 2 日（木）～ 7 月 27 日（月）

### 4 回収状況

178 病院から回答を得た。（回収率 71.2%）

### 5 調査結果

次ページ以降のとおり

※表中の数字は「病院数」。

また、四捨五入のため割合の合計が 100%にならない場合がある。

### 6 まとめ

- 県内の「31 病院が外国人患者の受入れを実施」している。
- 「中国」からの受入数が最も多く、受入れをしている診療分野・診療科は「健診・検診」が最も多い。
- 外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「国際医療コーディネーターとの連携」、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「多言語に対応した院内表示」が多くなっている。

(1) 病床数別にみた外国人患者受入れ状況

県内の31病院が外国人患者の受入れを「実施している」と回答し、病床数で見ると、8病院が「500床以上」、7病院が「100～149床」となっている。

なお、1病院が「実施予定」と回答した。

病床数区分 (床)	N	令和元年度 から実施	平成30年度 以前から 実施	実施予定	検討中	未定	実施予定 はない
20～29	4	0(0.0%)	2(50.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(50.0%)
30～49	15	0(0.0%)	4(26.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(13.3%)	9(60.0%)
50～99	43	0(0.0%)	2(4.7%)	1(2.3%)	3(7.0%)	12(27.9%)	25(58.1%)
100～149	28	0(0.0%)	7(25.0%)	0(0.0%)	1(3.6%)	7(25.0%)	13(46.4%)
150～199	23	1(4.4%)	1(4.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	6(26.0%)	15(65.2%)
200～299	19	0(0.0%)	1(5.3%)	0(0.0%)	1(5.3%)	7(36.8%)	10(52.6%)
300～499	22	0(0.0%)	5(22.7%)	0(0.0%)	2(9.1%)	6(27.3%)	9(40.9%)
500以上	24	0(0.0%)	8(33.3%)	0(0.0%)	1(4.2%)	4(16.7%)	11(45.8%)
計	178	1(0.6%)	30(16.8%)	1(0.6%)	8(4.5%)	44(24.7%)	94(52.8%)

(2) 外国人患者受入れを実施した経緯

外国人患者の受入れを実施するようになった経緯としては、11病院が「外国人患者又は家族からの依頼」と回答した。

外国人患者受入れを実施する経緯	回答数 (N=30)
外国人患者又は家族からの依頼	11(36.7%)
自院の方針として自ら開始	9(30.0%)
国際医療コーディネーターからの紹介	5(16.7%)
保険会社からの紹介	1(3.3%)
旅行会社等からの紹介	0(0.0%)
理事長知人からの紹介	2(6.7%)
医療機関からの依頼	1(3.3%)
顧客(会社)からの依頼	1(3.3%)

(3) 外国人患者受入れ人数【複数回答】

外国人患者の受入れ人数は、「健診・検診分野」では中国が半数以上を占め、他にはベトナム、インドネシアなど全9か国となっている。「治療分野」でも中国が2割以上を占め、他にはベトナム、モンゴル、アメリカなど全18か国となっている。

一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）は、「健診・検診分野」では1～5日未満のみとなっている。「治療分野」でも1～5日未満が半数以上を占めており、次いで5～10日未満が多くなっている。

《健診・検診分野》

・延べ受入れ人数

受入れ人数 (N=14)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～50人 未満	50人以上
	2(14.3%)	3(21.4%)	3(21.4%)	2(14.3%)	2(14.3%)	2(14.3%)

・居住国別受入れ人数

受入れ人数 (N=27)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～50人 未満	50人以上
中国	3(11.1%)	3(11.1%)	2(7.4%)	2(7.4%)	2(7.4%)	2(7.4%)
ベトナム	3(11.1%)	1(3.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)
インドネシア	1(3.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	0(0.0%)
ネパール	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	0(0.0%)
カンボジア	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
フィリピン	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
タイ	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
モンゴル	1(3.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
バングラデシュ	1(3.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

・一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）

受入れ日数 (N=14)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
	14(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

## 《治療分野》

### ・ 延べ受入れ人数

受入れ人数 (N=15)	1~5人 未満	5~10人 未満	10~50人 未満	50人以上
	10(66.7%)	0(0.0%)	2(13.3%)	3(20.0%)

### ・ 居住国別受入れ人数

受入れ人数 (N=44)	1~5人 未満	5~10人 未満	10~20人 未満	20~30人 未満	30~50人 未満	50人以上
中国	6(13.6%)	0(0.0%)	2(4.5%)	0(0.0%)	1(2.3%)	2(4.5%)
ベトナム	3(6.8%)	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
モンゴル	4(9.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
アメリカ	4(9.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
タイ	3(6.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
フィリピン	3(6.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
インドネシア	3(6.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
韓国	2(4.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ブラジル	0(0.0%)	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
インド	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
シリア	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
オーストラリア	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
フランス	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ベルギー	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
香港	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
オランダ	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
オーストリア	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ドバイ	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

・一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）

受入れ日数 (N=14)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
		8(57.2%)	3(21.4%)	2(14.3%)	1(7.1%)	0(0.0%)

(4) 外国人患者受入れの際の価格設定

外国人患者を受け入れるにあたり、**64.5%の病院が「診療報酬単価と同じ又はそれ以下」の価格に抑えている。**また、**22.6%の病院が「診療報酬単価の2倍以上2.5倍未満」、9.7%の病院が「診療報酬単価の3倍以上」の価格**としている。

N	診療報酬単価					
	同じ又は それ以下	1.1倍以上 1.5倍未満	1.5倍以上 2倍未満	2倍以上 2.5倍未満	2.5倍以上 3倍未満	3倍以上
31	20(64.5%)	0(0.0%)	1(3.2%)	7(22.6%)	0(0.0%)	3(9.7%)

(5) 外国人患者の受入れをしている（する予定の）診療分野・診療科【複数回答】

外国人患者の受入れをしている診療分野・診療科としては、「健診・検診」が最も多く、次いで「概ね全診療・治療分野で受入」が多くなっている。

診療分野	健診・検診	消化器外科	腎臓内科	脳神経外科	産科
回答数	14(35.9%)	1(2.6%)	1(2.6%)	1(2.6%)	1(2.6%)
N=39	婦人科	小児科	精神科	口腔外科	陽子線治療科
	1(2.6%)	1(2.6%)	1(2.6%)	1(2.6%)	1(2.6%)
	リハビリテーション科	内科	整形外科	概ね全分野	
	1(2.6%)	1(2.6%)	1(2.6%)	13(33.3%)	

具体的な疾患・治療内容等

- ・免疫細胞治療（自費診療）
- ・糖尿病教育入院
- ・脳腫瘍摘出
- ・統合失調症
- ・PET、カテーテル、放射線など
- ・リハビリテーション・ボツリヌス療法
- ・肝胆膵
- ・整形外科分野の脊椎疾患に特化。検査と内視鏡による治療。

(6) 外国人患者受入れに向けた体制整備【複数回答】

外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「国際医療コーディネーターとの連携」、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「多言語に対応した院内表示」が多くなっている。

外国人患者受入れに向けた体制整備	実施していること/ 実施しようとして いること（N=72）
外国人患者受入窓口（国際診療科等の専門部署・スタッフ）の設置	4（5.5%）
<b>多言語に対応した院内表示</b>	<b>8（11.1%）</b>
医療通訳を院内のスタッフとして配置	6（8.3%）
<b>医療通訳を院外から必要に応じて手配</b>	<b>11（15.3%）</b>
多言語に対応した医療従事者（医師・看護師など）の配置	7（9.7%）
外国人患者受入れに対応した診療施設、入院施設の設置	3（4.2%）
<b>契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応</b>	<b>11（15.3%）</b>
情報発信・プロモーション活動	3（4.2%）
<b>国際医療コーディネーターとの連携</b>	<b>12（16.7%）</b>
国際医療コーディネーター以外の機関（国内外の医療機関、自治体、旅行会社など）との連携	4（5.5%）
その他（国際医療コーディネーター育成研修及び外国人患者受入れ医療コーディネーター研修等への参加、翻訳機の購入）	3（4.2%）

## (7) 外国人患者受入れにあたってのサービスの実施主体

外国人患者の受入れにあたって、「患者情報の入手」、「医療通訳・医療結果翻訳」、「支払手続き」は、病院自ら又は外部委託により約6割が実施している。

業務名	概要	N	提供				未提供	
			自院	外部委託		(小計)		
				有償	無償			
事前	患者情報の入手	医療情報、患者情報の入手	31	7 (22.6%)	5 (16.1%)	5 (16.1%)	17 (54.8%)	14 (45.2%)
	同意書の締結	治療内容や治療費変更の可能性など、同意書を作成し、患者と締結	31	11 (35.5%)	4 (12.9%)	1 (3.2%)	16 (51.6%)	15 (48.4%)
	ビザの手配	ビザ取得に必要な書類の入手・作成	31	2 (6.5%)	6 (19.3%)	2 (6.5%)	10 (32.3%)	21 (67.7%)
	必要書類の翻訳	入退院関係の書類書類、検査・治療の同意書などの必要書類の翻訳	31	6 (19.3%)	7 (22.6%)	2 (6.5%)	15 (48.4%)	16 (51.6%)
	来日搬送の手配	日本までの移動や空港到着後から病院までの搬送などの手配	31	2 (6.5%)	5 (16.1%)	2 (6.5%)	9 (29.0%)	22 (71.0%)
	航空券・宿泊施設の予約	航空券や国内宿泊施設の予約	31	1 (3.2%)	4 (12.9%)	2 (6.5%)	7 (22.6%)	24 (77.4%)
滞在	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	31	2 (6.5%)	5 (16.1%)	3 (9.7%)	10 (32.3%)	21 (67.7%)
	医療通訳・医療結果翻訳	医療通訳が必要な場面(事前説明、受付、診察、検査等)における医療通訳	31	5 (16.1%)	9 (29.0%)	3 (9.7%)	17 (54.8%)	14 (45.2%)
	院内での特別食の提供	入院中の患者への宗教・信条(バジタリアンやハラール食など)に合わせた特別食の提供	31	14 (45.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (45.2%)	17 (54.8%)
	支払い手続き	費用の支払い手続き	31	10 (32.3%)	4 (12.9%)	4 (12.9%)	18 (58.1%)	13 (41.9%)
	生活面・観光での支援	日本滞在中の病院外での支援(通院同行含む)	31	2 (6.5%)	3 (9.7%)	2 (6.5%)	7 (22.6%)	24 (77.4%)
帰国	アフターケアの支援・再診の調整	帰国後のアフターケアの支援及び再診時の日程調整等の支援	31	4 (12.9%)	6 (19.3%)	3 (9.7%)	13 (41.9%)	18 (58.1%)



(8) 海外在住の外国人患者の受入れを断った経験

回答のあった178病院のうち**24病院が海外在住の外国人患者の受入れを「断った経験がある」と回答した。**

断った理由としては、「**言語対応ができなかったため**」、「**診察できない内容だったため**」が多くなっている。

	あり	なし	不明等
海外在住の外国人患者の 受入れを断った経験 (N=178)	24(13.5%)	137(77.0%)	17(9.5%)

〈断った理由〉

- ・言語対応ができなかったため。(6件)
- ・診察できない内容だったため。(4件)
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため。(3件)
- ・受入れ体制が整っていないため。(2件)
- ・対応ができないため。(2件)
- ・日程が合わなかったため。
- ・医療費の問題のため。
- ・専門医がいないため。
- ・地域医療を優先しているため。
- ・仲介していただく会社との契約がないため、個々での受け入れはリスクが高い(連絡先、未収等)
- ・当院のその当時の方針

(9) 県に実施を望む施策

県に実施を望む施策としては、**77 病院が「受入環境整備のためのガイドラインの策定」**と回答した。

県に実施を望む施策	回答数 (N=228)
海外の展覧会へ県内医療機関とともに出展してPR	11(4.8%)
外国人観光客等にPRするためのパンフレットの作成	27(11.8%)
<b>受入環境整備のためのガイドラインの策定</b>	<b>77(33.8%)</b>
医療機関の院長等を対象としたセミナー	35(15.4%)
現場職員を対象とした研修	63(27.6%)
その他	15(6.6%)

〈その他の具体例〉

- ・実践的な外国語の取得ができるような環境整備
- ・医療費の支払いに関する説明や未収金に対する補助
- ・言葉や文化の違いによって起きるトラブルの対応方法
- ・医療行為以外の業務は病院が行わない（民間ツーリズム会社などが行う）仕組みづくり
- ・専用機関の設置
- ・トラブル発生時の積極的な支援や助言

(10) 外国人患者の受入れのため、海外へ情報発信したい技術・機器又はサービス等【自由記載】

- ・先進医療
- ・日本では、短期間入院による手術が可能な対象疾病が多い。
- ・人工透析
- ・ナビゲーションシステムによる人工関節置換術（膝）を実施している。
- ・循環器疾患・腎臓内科疾患・脳外に力を入れている。また、本態性振戦に対する新しい治療（MRガイド下集束超音波治療）を行っている。中国・インドネシアをターゲットにしている。
- ・ロボットによる癌治療

- ・低侵襲治療（ロボット支援下内視鏡／腹腔鏡／胸腔鏡手術）  
患者の負担も少なく精度の高い低侵襲手術を積極的に行っている。
- ・低侵襲画像診断治療センター  
CTは従来よりも少ない被曝線量で詳細な診断が可能となっている。
- ・中国のみならずベトナムに目をむけている。
- ・眼科 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術  
同法人内 PET、ハイパーサーミア  
形成外科 皮膚レーザー治療（アザ・シミ）  
泌尿器科 腹腔鏡手術  
ターゲット アジア圏（中国など）、インド
- ・泌尿器科：ロボット支援手術で前立腺癌、腎癌、膀胱癌生体腎移植、小児手術（尿道下裂形成手術、腹腔鏡下逆流防止術等）  
外科：胃癌大腸癌における低侵襲腹腔鏡下手術、鼠径ヘルニアにける鏡視下手術、腹部大動脈瘤におけるステントグラフトなど  
心臓血管外科：小児、とくに新生児、乳児の先天性心疾患手術の良好な成績。  
眼科：内視鏡を利用して空気下や網膜下における特殊な手技を併用した硝子体手術を行っている。これまでに、通常の顕微鏡のみで手術を行っている他施設では治療不可能であった角膜混濁を伴った網膜剥離、難治性網膜剥離、加齢黄斑変性に続発した網膜下血腫、脈絡膜腫瘍に対して治療実績がある。
- 消化器内科：胃がん、大腸がんに対する内視鏡的治療（ESD、EMR、ポリペクトミー）。ウイルス肝炎に対する評価、ならびに薬物治療。肝がんに対する穿刺焼灼治療（RFA）、カテーテル治療
- 歯科口腔外科：口唇口蓋手術・口腔がん手術
- ・ダヴィンチを用いた手術、リニアックを用いたがん治療、高性能MRIなどを活用した人間ドック。これらと観光をセットにしたヘルスツーリズムを将来的に市の観光施策と併せて検討を考えたい（対象国； 中国）
- ・PET-CT、320列CT、3テスラMRI、マンモグラフィ検査、放射線治療、ロボットによる癌治療、コンシェルジュ（院内での治療・検査室への案内係）の配置等、最新の医療機器と患者サービスの提供。
- ・脊椎低侵襲内視鏡視下手術

## (11) 海外在住の外国人患者の受入れ全般についての意見・要望等【自由記載】

### 〈課題・要望〉

- ・医療費の支払い。(未払いに対する公的な対応等) (4件)
- ・言葉の問題。(言語サポートを無料で受けられるサービスの提供) (3件)
- ・受入れ患者に対する情報からサービスまで全体を管理するコーディネーターが必要である。
- ・術後のフォロー等。
- ・選定療養費を理解しようとしていない外国人が多すぎる。
- ・富裕層が想定されるため、療養環境の整備が必要と思われる。既に受け入れしている病院が、どんな環境整備をしたか情報発信頂きたい。
- ・海外の方々のニーズが分からないので、PRの進め方において組立がしにくいという事は感じる。(Ex. 海外の医療を取り巻く環境など。)
- ・外国人の患者情報を円滑にやり取りするための医療情報システムの構築が必要。医療機関が単独で個別に行うのは負担が大きい。
- ・受診歴の有る患者に対しての遠隔診察・処方・薬の配達等を緩和。
- ・外国人の受入れについては、言語と会計処理、日本人と外国人の慣習の違いなどの負担が現場にとって一番大きいと考えている。民間活力も活用して、組織的にサポートいただける環境が整備されない限り、病院単体では進めることは難しいと考える。
- ・自治体病院では、議会が外国人受入れに対して理解をいただけるかも大きな課題となる。
- ・外国人患者の受け入れについてのアナウンスと同時に医療ビザ等のルールがあることも合わせてアナウンスしていただきたい。

### 〈その他〉

- ・外国人患者を受け入れる体制が整っていない。(4件)
- ・今期外国人患者高額未収金が発生しました。健康保険がなく(対象外)自費のため今後は前金がないとお受けしないルールとします。
- ・ただ自由診療で受入れて稼ごうという病院ではなく、純粋に日本の最先端技術/医療を提供できる病院がこの事業に参戦するべきだと思う。
- ・対応に時間がかかり、あまりメリットがないため、積極的な受け入れを行っていく予定はない。
- ・これまで、本格的には検討したことがないが、今後の課題とは認識している。

- ・外国人患者の招致より、外国の医療機関と提携して、日本の周産期医療技術の展開を行っている。
- ・診療費支払いについて確かな方法がある方以外の受入れには消極的になってしまうのは否めないと思う。